

繪本
豐臣
勲功
記

七編
三

2209
63



遠 13
2209
巻 63



繪本豊臣勲功記七編卷之三 目録

素名攻長岡忠貞救中川 属 大敗瀧川

中川兄弟守岡原烈戦の図

平野権平弓精の図

秀右授謀秀勝脩敷一益 属 素名退城

秀右大不謀て素名長鳴と鷲うまの図

豊臣巴一編卷之三



游川一益水門より落去まる図

秀吉選軍志津嶽構大營 属 謀略濃及

徳嶽柳濃西陣の真図

秀吉徳尾の絶頂小細作の図

玄蕃使宇野説山路将監 属 正國感服

宇野悦容の図

繪本豊臣勲功紀七編卷之三

江戸 櫻澤堂山 編輯

素名攻長岡忠興故中川一属大敗一

宋均九江の太守たね。極虎も怖く江と濱り去威徳と容

し服さるん。智勇られも無小劣る。游川一益素名

小住し。自己が智勇小慢ぶる滅地の員小純さるあれ

千里の鐵橋小堅守との中も堅固ある事秘する。然

る小勢州攻の徳大將羽柴筑前守田代少将秀吉六を陣

をりて神戸向子の隙間小備へ其道をと放火し威を

示もこと莫右あり。游川一益とれ氏略奮然とる大い小

勢を此上六猿面冠者が進ると待てを我遂進くと遊撃し

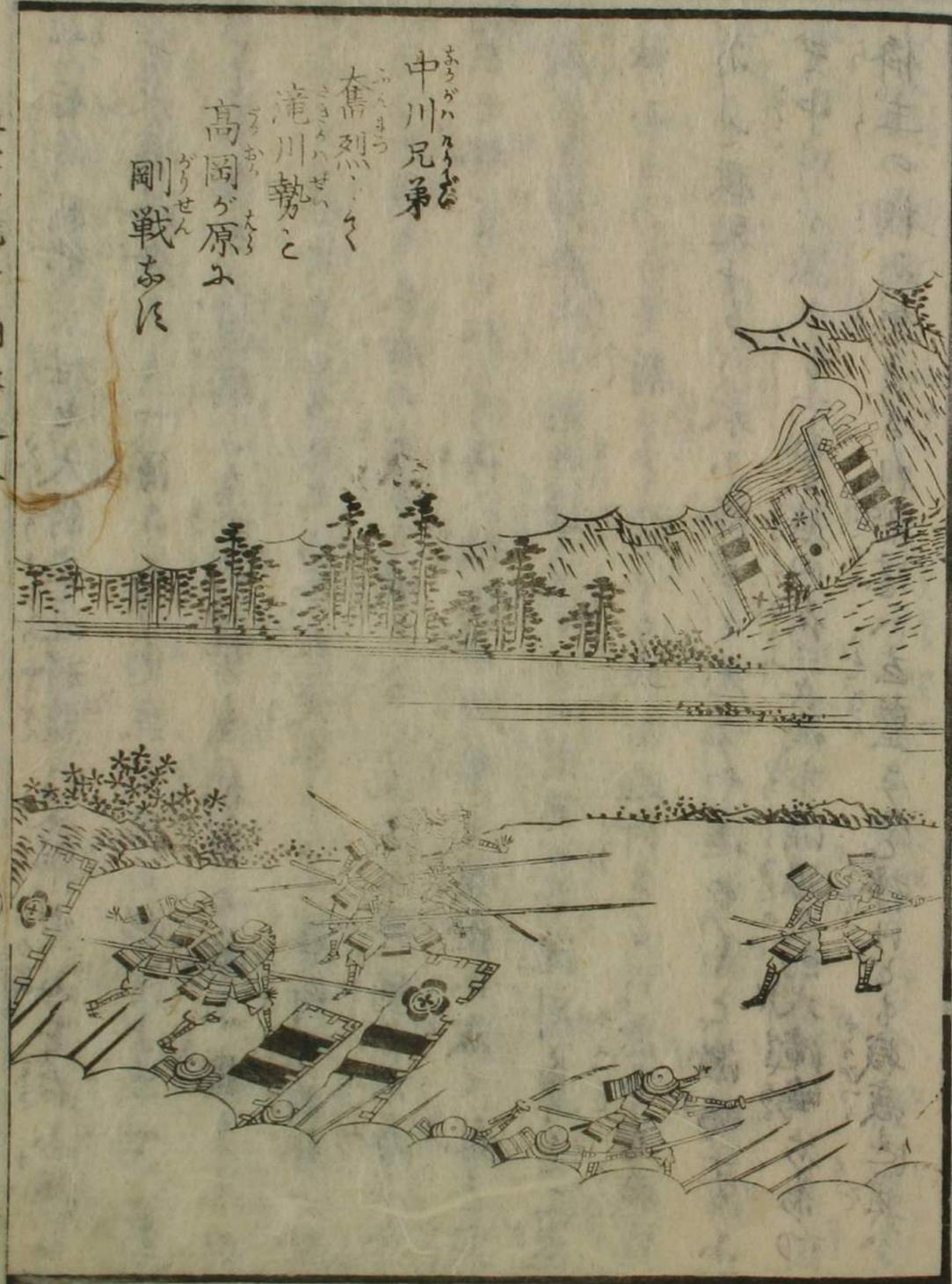


秀吉が膳所城へ入ると谷崎忠右衛門山路九郎太次は
 魁隊とあつた。九郎太次は一益へ。後陣小列は推後を。總
 勢五千二百餘騎。素名と發して神戸ある。秀吉が本陣常
 々進軍あり。然るに大將秀吉は既小瀬川一益分。進進
 するに於ては日ごろ大谷慶松本村小隼人。明石兵衛小
 三百餘人の強率と率跟。謀計をよく謀合。退分あるは
 日市船を放火あり。次は羽柴於次九秀務と大ね
 千々桑山修理虎中村孫平次加藤孫六海が二千餘人
 を相副して。白子の濱より船を出させ。海路浪素名を推
 出させ別小高山右近ととて。一千八百餘人と率せ。あつた
 船より素名より。宮の慶小瀬りさせ。暗号の時刻と待たせり

又手本道の列仕中川瀬長湯と先陣ととて。高岡川と
 背小あり。平橋を面す陣は結ぶが二陣ハ長岡豊一舟
 山方小勝く段陣あり。三陣ハ生駒甚助平野俊平陣
 出羽守海山の總領小陣と構へ。他の如くは千生駒の
 大馬標。花吹風小翻らせ。大將秀吉は這所小出馬あり
 たる。慈子齋せうけ。鏡と然と動つたり。然るに小瀬川の先
 陣山路九郎太次谷崎忠右衛門後の二千餘人の日ごろ款長の
 款吹しへ狼藉をなす拒抗んと。四日市進軍と其所迄
 不と。款長中と尋ねれども。縁く針織のあつた事あり。此
 這の山際彼の林檎。露出陰段放火中々。瀬川勢を秀の
 しけるの。切つる合戦もありける由也。今ハ進とも所を

先や羽柴が陣へ推進一時小勝負と決せんものと陣戸
 を當り奔投しけり。高松川小隈と山ノ尾を略し
 親を千生乳の馬標と最喬しう小推立あり。諸を様
 将者ごんあきと一條の連松道と改むる。先陣中川清
 秀が隊は小細く偶合あり。双方繼ぎ相つたるるゆゑ
 撓らひませぬ喊と登り。斜隊の秀統整合せ。挑莧をその
 中より瀬谷清が合身淵之助の今日の一番給乃所あり
 と十文字の槍槍練り馳出。敵の駿率と東西へ排除と看
 る隙もあく。大喝一掃流川が先將山路九角を文益信を
 天面相小棚墮し首と取んとする。流川の兵士五六十
 一駿小馳進り首と渡と。個之雨を尖小捕網微塵不劣ん

と戦り。瀬兵衛清秀これと見て骨肉同胞の愛情より平
 日小倍せし猛怒を登り。大夜叉王が鐵輪の象車と轉を
 威勢を顕し。谷崎が隊伍小棚蒐るこそ小氣を得て御之
 助兄も劣らむ。奮突しけむ。同トく弟小七右あつ。辻
 兵衛も安声登り。烈火激水盤石も微塵小かさんと接し
 りけむ。了得の若崎忠右あつ。敵の丸と号けし陣列親
 と顔して止す。途かく六七町を。追起られり。浩るこころ
 小滝川一益。魁軍難戦ありと。聆よりまいや。救へと馬小拍い
 れ。まがり正懸小馳出せり。老黨倉地郷太夫園部常藏室
 山備中守水嶋左一兵衛海老名重右あつ。濟我劣らトと進
 ぐり。中川が隊伍小近づくや唇や忽ち飛麟の陣をか。先



中川兄弟
 奮烈
 滝川勢
 高岡が原
 剛戦



徳川実業記 卷之十一

と谷崎岡部小任七。大將左近將監。倉地室山を。右小廻ら
 せ。水嶋海老名と一隊小ありて。左の方の横際より。咄と營
 て。突鬼をバ捷驕る。中川勢も。暴隊の敵小當り。ね
 まう。怯で看る。ところを。敗走あ。る。谷崎も。岡部が勢
 小力を得て。左右の自分と。喊を合せ。五千三百一同。小火あ。ふ。か
 れと。接ぐ。う。ければ。了。得。不。猛。さ。中川勢も。僕。燈。ふ。成。て。乱。起。
 瀨兵衛清秀。大小。怒。り。遂。き。自。方。の。所。為。り。か。滝。川。あ。り。と。て。鬼
 神。小。も。あ。り。む。斯。ま。ぐ。捷。る。戦。を。逃。御。ま。る。い。底。事。ぞ。戦。場
 小。で。敵。死。す。る。い。木。小。帰。る。と。思。よ。や。進。め。く。と。激。喝。す。る。小
 ぞ。中川が。隊。の。勇。士。多。る。熊。因。在。三。兵。衛。市。浦。浪。之。助。大。滝。鳴。右。助。の
 倚。主。の。詞。小。懋。ま。さ。れ。踏。堪。へ。立。整。さん。と。拵。け。ど。も。戦。疲。進。其。が

上。馬。致。の。暴。隊。の。大。軍。中。之。之。方。一。度。小。棚。起。る。れ。が。僅。に。堪。え
 後。力。あ。り。終。く。と。て。乱。る。核。會。す。二。陣。小。隊。引。一。長。岡
 與。一。節。忠。興。へ。進。程。う。ら。撃。く。中。ん。と。脚。踏。鳴。く。待。隊。も
 中川。兄。弟。乱。る。と。見。ゆ。れ。ば。を。い。や。と。て。二。千。五。百。と
 雁。行。小。隊。伍。山。方。と。斜。小。隊。川。の。後。と。斬。ん。と。推。遠。し。如。此。と
 懸。く。近。着。し。難。あ。り。清。秀。と。故。中。自。方。と。懋。一。戦。ひ。る
 め。ぞ。滝。川。の。兵。額。と。山。上。あり。ける。秀。吉。の。馬。標。と。心。當。り。中
 川。勢。と。斬。前。し。其。岡。小。隊。と。突。登。ら。ん。と。藁。地。小。清。勢。と。近
 起。る。後。路。小。長。岡。子。一。所。蟠。蛇。の。度。と。追。ふ。如。く。喚。き。叫。び
 攻。着。た。れ。ば。滝。川。左。右。あ。り。進。得。ず。隊。伍。と。返。し。て。戦。あ。ら。う。
 秀。吉。中川。清。秀。へ。長。岡。が。つ。め。小。虎。口。と。遁。を。姉。へ。傳。へ。あ。り

くるが腕川勢一捲せし事、率の朽憾さし、隊仕と警
 て示若び。馬と進めんとあし、成熊田市浦瀬門ふ之塞り
 至煤の合戦、利刃か入、至益不駛率と弱んより。這場ハ昔
 固く所獲あり。姑く休息ありし。漸くのこし不練止あり
 僅不還り。練方し、至慈心が、長岡与一身忠貞ハ申川勢
 と後陣不廻り。炮列強隊隙あり。暴兵と養地不推せ。
 二千八百と二隊、部々並み、長尾助右衛門。之岡平馬清水
 縫之助鶴翼ありし。推提稠密。後より、大将忠貞、自身
 正射不捨捨陣、迫よる。敵の騎士歩率。強弱老少、拵あり
 捲起し。腕川勢の淨路を断んと。息吹教を攻着ける。あ
 一益大不敵せし。一、茶後不暴隊の敵と對向、更勢あり。

自兵もあつた。腕川勢、亂れし、踰渡とある。成、忠貞、すし、
 勇と奮し、奔雷の傳く指揮しければ。又千不餘る。腕川勢
 も。會敵か、一驍不蹶と。退前されし。二と町、踏つ、敗
 走する。甚うあつた。谷崎ハ初度、小羞を、猶踏歩り。長尾勢
 を退返せん。岡部、室山、小林、海老名、かの、備ふ、投り、返り、
 忠心、小力と勤せ。距離ありし。大将と退らせんと。防戦、小、活
 こそ、く、三陣あり。高岡、山、由、隊、依り、一將、平野、持、平、長、卷、ハ
 自兵、僅不、又、百、む、り、沢、根、終、く、山、通、鼓、より、踰、あり。戦、場、と
 嚴と、規、率、せ、大、將、一、益、蓬、く、も、水、邊、倉、地、不、茶、後、と、守、せ。
 躑、行、後、身、と、視、る、より、速、く、弓、不、矢、搭、へ、視、固、て、肥、地
 致、て、腕、川、が、運、や、強、り、らん。朝、を、う、け、く、鬼、の、狭、と、拂、筋、と



平野長
泰弓精
依以
大滝川
一益
怖

豊臣記 卷之三



豊臣記 卷之三

射破て矢と共子。箭落し一益驚と。脊と踏く二の矢と避
 平野の初獲の矢と射損じ。可朽憾と垂矢と搭ひ。法烈しく
 切り放てば。一益が後伍不蝦傍くる。倉地卿と父が澄と搦る
 水島左一益坊が脊背より曾脛うけ。蓋心一寸血烟と共子
 射獲したれば水島をいふ場なき。苦叫あいら死うらと這り
 精不勝川勢も魂も身不絶もぞ。逸脚傍傍不逃出せり。
 這駒中川清秀も夜令。理治たれば。初戦の遺恨と教さく
 長谷勢ふかと勢を借し。追記捲付追分近くありらる。駒
 瀧川勢の敗陣より。身の扱六尺有餘の武士。若とめく大腹を
 描ある。標當高く翻り。取返しく長岡勢も喘着を
 かり不揃く蒐り。追進欲出六七騎。敵不多れと満散し。大音

声不乃郎の瀧川殿の箭黨不。海老名重右衛門と叫ぶるもの。
 夜對をき輩へあきや。来れしと叫び行へ。長思か二後
 隊伍の騎兵の中より。清水縫之助是ふあり。翌日の好し。逃行
 奴儂ハ。助けらまんと思ひしもの。命惜まを返し。あまも亦
 特りき。武士ぞや。捨る余は拾ふ。得せん。去來。あまも亦
 と様合。暴風の像く撃太刀不。馳雨より。疾き陰の進退
 同あも止ぬ。雨士が烈戦。後兵へ互ふ。近づき。得を。汗と極り
 看守るうち。清水が聲。込込大か。と。丁損く。重右衛門。右の
 肩より。膳まで。斬下られ。鞍疔。あまも亦。爛と墜て。死うらる
 這際不。瀧川。主役ハ。漸く辛き死路と斬脱。日市まで退
 去り。長岡中川平野が勢も。これまであり。と。兵と。嫁の。務岡

發し平軍あり。平野控平。流川一益を盛を拾らせ。神
戸の本陣へ返軍あり。三将等一軍の始終と。筑前守へ
訴へられ。秀吉あらく感賞あり。功と芳らひむひり

秀吉授謀秀勝倭一益属兼名退城

惣大あら。破大あり。鯨の漢者と引か如く。惣小あら。有
ちやそ。拾の層丈と避るか如く。惣らど。流川一益。今日
の敗軍と憾念小あり。まづに日市と追分の際。小陣を構布。
緒將を集り。織々々々。敵名當日の捷軍。小心。後て
疲苦小。一。今宵多。熱。倦せん。浩る機。會こそ。夜。終
菟づき。究竟の時。あれ。各。準備せらる。と。言。つ。ま。終
ざらふ。一軍と率。と。者あり。是。峯の。城。小。守。在。る

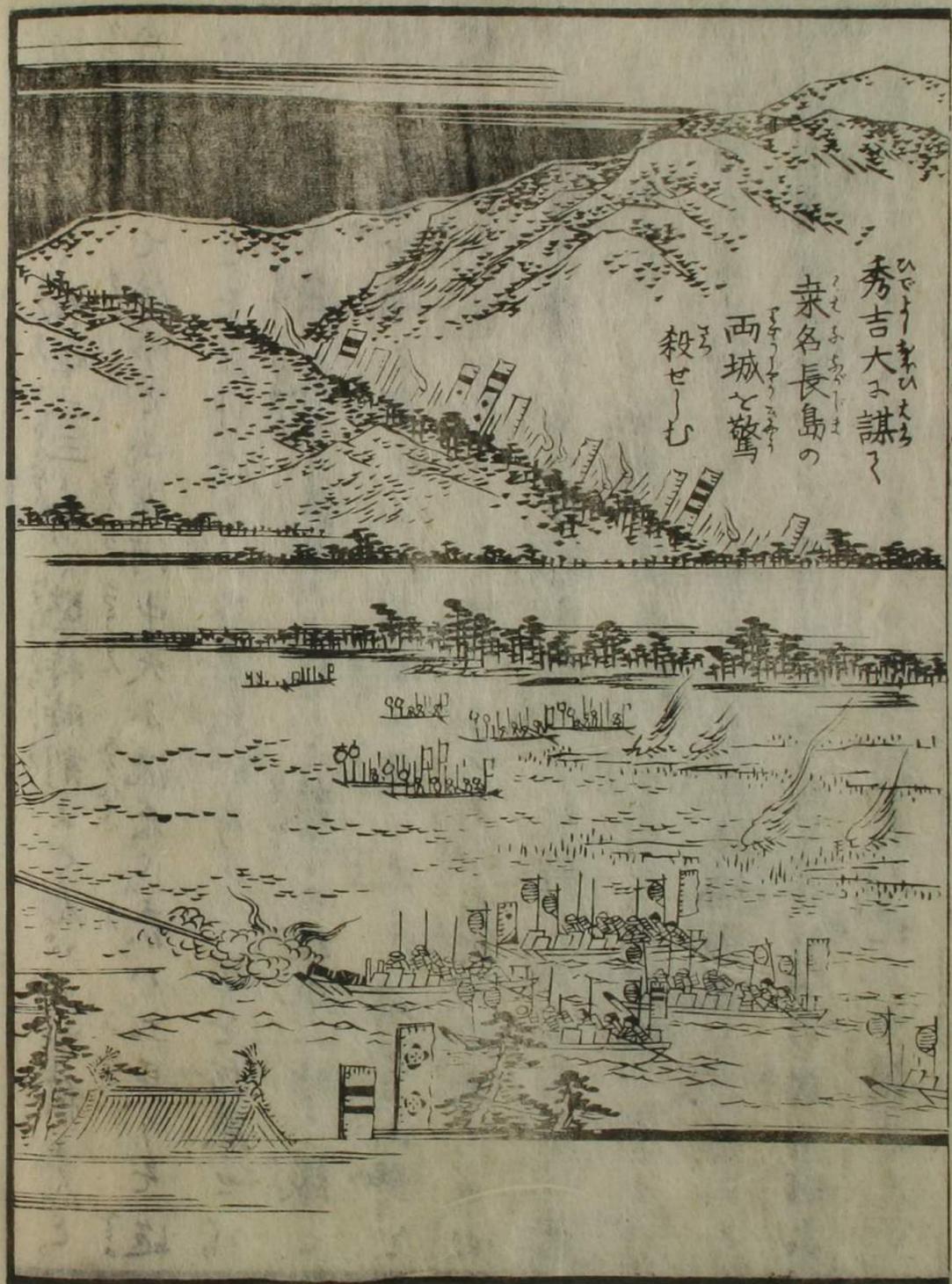
流川一益。あり。同日の。言。不。退。城。と。日。市。小。守。り。
順。の。頭。を。遣。び。と。終。軍。事。小。遠。く。と。言。
自。方。の。統。率。と。減。さ。ま。と。大。將。一。益。小。退。く。言。や。り。今
日。細。作。の。告。る。と。聆。ふ。秀。吉。を。も。素。名。あり。本。城。と。攻。ん
と。て。言。出。河。原。に。合。戦。を。ま。す。自。方。大。小。破。る。よ。を。承
所。期。へ。早。く。本。城。を。救。へ。と。取。る。もの。取。致。せ。と。捨。て
棄。り。たり。と。重。さ。ふ。流。川。一。益。も。老。功。の。智。將。あり。本。城。の。一。城
合。戦。危。く。持。得。む。と。承。り。と。素。知。る。ぬ。新
て。流。川。一。益。の。養。と。忘。る。早。速。助。勢。せ。と。素。知。る。神。妙
の。至。あり。今。流。川。一。益。が。暴。兵。と。得。る。夜。終。る。務。ま。き。右
北。あり。と。夜。終。の。事。と。若。く。の。ち。倭。軍。と。も。先。冠。と。か

五百餘人小火具を揃へ、敵の陣屋小火とつけし。其計略を
 練合せ、青地頼母、倉地郷を度し、七百餘人の各々を度し、
 左右小分を度し、儀を度し、故を度し、と儀教と定め、子の刻と
 し、お茶を度し、暗号の時刻と復在り。其の闇き、小
 中村、孫系次、加藤、孫六、倭が二千餘、高山上、右邊が一千五
 百有餘騎、海沿と既小持着し、又百餘人小分を守らせ
 お勢三千、矮小より、山方の暗号と窺ふ。諸亦、明石、
 尾原、大谷、慶松、本村、小集人の二百餘人、遊手を度し、
 後、藤、針、森を度し、直に、赤名、小池、向ひ、富田、渡り
 の山、小分二三十人、攀、藤、松、炬、千と作り、立、持、の、藤、小

結着。小分、松、炬、二、三、本、で、警、持、時、刻、よく、ん、火、を、移、さん、と。
 片、津、の、谷、で、待、ち、ど、小、漢、河、中、天、小、流、来、し、夜、の、二、更、り、を、迄
 び、ぬ、る、時、こ、そ、宜、け、れ、と、大、谷、慶、松、暗、号、の、一、炬、を、振、照、せ、ば、
 西、小、連、か、る、嶺、を、谷、に、お、く、ま、と、數、千、の、松、炬、一、時、小、燦、と
 照、し、連、喊、を、咄、と、牽、け、る、小、ぞ、炎、の、光、ハ、天、子、輝、き、山、野、を
 照、し、て、移、し、是、を、看、る、う、り、海、方、り、も、高、山、右、近、が、一、千、三、百、小
 山の、像、き、大、燦、を、五、六、方、所、小、燒、起、さ、せ、城、平、向、ふ、て、石、門、炮
 あ、ま、し、敵、を、蒐、く、と、隙、隙、も、あ、ら、せ、と、攻、蒐、る、小、秀、勝、が、隊、の、千
 七、百、騎、加、茂、中、村、二、方、小、部、を、率、名、長、嶋、兩、城、を、攻、起、る、こ
 と、殆、ど、急、か、り、城、中、の、兵、士、こ、れ、を、看、て、呼、り、の、隙、に、敵、兵
 ハ、斯、八、方、より、推、進、う、る、ぞ、天、り、や、遁、走、ん、地、小、や、隱、走、ん、い



豊臣記七編卷之八



ひでよりの謀
秀吉大に謀る
衆名長島の
西城と驚
殺せむ

豊臣記七編卷之三

小川、一と頭躍り。本心ある輩徹けり。遠眺、素名長嶋の留守
 官、然川彦次郎。日置五郎左衛門。寨樓、千登りて四方を懸流
 是々、全く敵の討略、内外の自方を欺らんと。斬一々、ぬ羽
 柴が所作。うろたむ驚くことあられと。馬騎廻して制止し
 けと。騷動、更小鎮す。次、進兵ハ早くも。蝶、例近く推進て。
 蝶、小捉着、跨技んとむ。日置五郎左衛門、頻小指揮して。こま
 を拒抗とつふとどども。いと見えけりゆゑ、預て大將一益が
 敵、残せし暗号の烽を。數條一吐、小放沖さうけまば。進兵も、漸川
 一益が、退返えんことを察し。素名の城の圍と解、三千残らむ船
 小捉、素長嶋の方へ、擗出して。闇夜、一燈點せざらんば。いつ
 く小敵、船あうとも、知まむ。其れと見るよう、山方の諸兵も、一時小

松、炬燵、燵きとせ。鳴と、鴉め、窺し。この時、滝川一益ハ、夜襲の
 準備、令く預ひ。お、夜んとむ。不、事、お、放、應、き、よ、
 預、命、屬、愈、と、輝、の、素、名、長、嶋、あ、海、小、後、一、着、ら、ね、
 尤、通、の、監、大、小、駭、き、是、統、率、小、い、く、ま、る、べ、し。夜、襲、も、今、と、あり
 が、了。ま、ら、平、返、せ、と、頻、小、指、揮、を、し。お、千、の、勢、と、二、隊、は、お、ち、滝
 川、我、を、交、青、地、嶺、也、よ。二、千、と、授、け、く、ま、ら、長、嶋、を、救、ら、ぬ、と
 魁、小、進、せ、せ。一、差、ハ、谷、崎、會、也、後、距、き、お、ま、。擗、起、く、退、返、を、
 這時、羽、柴、秀、吉、ハ、夜、中、と、つ、ま、も、怠、慢、を、し。情、子、を、容、く、お、き
 け、ら、ゆ、名、を、さ、く、も、これ、承、知、し、ら、し。先、陣、中、川、長、島、小、命、ト、擗、く
 せ、し、と、預、く、と、り。討、後、を、蝶、安、を、く、ね、お、中、川、長、島、志、の、む、や、ら、し
 二、陣、の、隊、伍、を、擗、出、し。退、分、の、遠、方、十、町、を、り、程、を、隔、く。通、達

軍と待合り。夜もちや二更と過るとおぼやく万續沈む。こゝろ兩三人の情子輩。息と腹をく走り。今こそ素石の事起り。淺川一益輝く軍を返しありと。若くは中川鉄砲より。二百餘挺の鳥銃。列を斜ふるも。松柁一時も照し。連火を小指揮し。推せし。淺川勢の後距と一町をり。漏らうと看くられ。をちや放せと。二百餘挺。筒頭流し。放菟く。城の夜は。烈しけれもの。急ぎ退き。攻菟り。是も小濱く長岳。輝る。次第とらう。推進す。然るも淺川倭を交へ。接し。推し。退退し。實る。ころ長岳の。松門。進く。あり。天の二日の闇。松柁あり。松柁も。着候と見。其も。松柁も。奇怪あり。今こそ。敵千の。其とも。定り。小餅へ。か。松柁も。奇怪あり。今こそ。敵千の。

敵兵が。海も山も。充滿。う。退散さんと。来て。看ま。敵一人も。あり。あ。斯い。う。小。何事ぞ。狐狸妖怪の。欺き。や。と。怪し。む。たり。小。勘果。途方を。失。小。風情あり。斯て。果。城。又。投らんと。青地頼母が。逸早く。指揮を。傳へ。て。城門。開。せ。城。又。投らんと。か。し。ける。時。義太夫。益。益。を。判。し。何。と。て。疏忽の。所作。を。夜。も。ま。と。曉ぬ。小。入。城。あ。さ。い。闇。夜。又。紛。は。敵兵の。倍。又。投らんと。量り。侍。よ。侍。よ。と。判。する。隙。も。ち。や。四。五。百。騎。込。投。て。裡。より。扉。を。固。め。う。り。儀。太。夫。若。び。う。ち。驚。き。危。や。投。し。敵。小。あ。ら。ぬ。う。斯。ら。い。う。と。せん。と。進。退。す。迷。ふ。て。惘。然。と。機。會。を。海。方。忽。ち。振。動。し。て。一。棟。の。寨。接。燧。熾。は。是。を。暗。号。と。み。し。う。り。けん。

夥の大砲一吐小隊起。多くも背門撃破りて。海方の三千
 五百餘騎潮の像く殺投り。正魁小城へ投り。是。大谷
 本村。明石。倭。三百餘人の強兵。て。青地頼母。自勢。又
 紛。登。くも城。又。込。投。て。寨。橋。又。火。と。う。け。焼。起。け。る。も。是
 を。暗。号。又。海。方。る。東。山。高。山。中。村。加。藤。於。次。丸。と。一。双。小。二
 の。丸。と。中。ぐ。系。捕。り。瀧。川。彦。次。郎。も。拒。抗。又。術。あ。く。闇。夜。を
 倅。僥。自。勢。僅。又。跟。従。へ。徑。と。繞。り。て。義。太。丈。丈。勒。へ。一。所。一。馳
 着。け。る。こ。ろ。漸。く。東。天。明。初。り。予。得。の。義。太。丈。詮。益。も。余
 詮。あ。く。彦。次。郎。と。伴。ふ。て。東。名。の。城。へ。退。る。ぬ。備。亦。瀧。川。一。益
 の。敵。の。退。撃。も。事。も。や。と。隊。伍。を。系。之。後。徐。く。東。名。の。城
 へ。着。け。る。が。敵。も。嚴。し。く。退。却。さ。る。ゆ。え。曉。近。き。天。境。又。事。お

く城小投けるが。日置五郎左衛門出迎へ。夜中の敵の忽北
 起りて。忽北鎮り。惹び長嶋を改り。相の始終と語り在る
 ところ。瀧川義太丈彦次郎。青地頼母。倅も投来り。敵の奇
 計。又。滔。て。面。目。あ。さ。と。解。科。け。ま。い。一。益。彦。次。郎。倅。と。大。不。魁
 め。驗。又。怖。し。と。怯。面。う。か。我。を。ら。斯。中。で。難。ら。う。さ。進。て。河。谷
 へ。避。げ。さ。う。ん。思。へ。バ。今。更。持。徳。さ。い。遠。一。益。が。身。小。こ。そ
 何。ま。數。年。織。田。家。小。忠。勤。と。場。し。軍。功。も。亦。寡。く。次。祝。小。東
 國。の。管。領。と。な。り。其。上。信。者。の。勇。と。号。ま。織。田。家。老。后。の。一。個
 ぐ。身。が。言。詮。あ。く。も。唯。一。戦。也。利。を。失。ひ。纒。小。東。名。の。一。城
 を。身。の。安。所。と。お。を。こ。こ。の。我。が。ぐ。軍。慮。拙。き。始。終。あり。斯

まて還の逆せしも。天より羽柴と相くるりの。呼括憾や
 と一声叫べ。憤血激と流出り。緒將大周章驚き。勃抱か
 して圍裡に臥さ。め。要時養生せさせり。然るも羽柴秀
 吉。緒隊を命せん夜の曉ぬらち。四日市まで推出させ。卯の斛
 天又總勢を駈起こ。進ませぬ。素名の城を十重の重水漏
 さと圍ませり。備又仙石城。羽根田。三千餘騎を領せめ。
 三十艘の艦船を。四日市より擲出させ。素名の海を磯近。佐屋
 川辺まで推遷らせ。海陸一時に喊を合せ。大砲小砲を乱發して。威
 を示すこと博大ある。智勇も長る瀧川も。羽柴が奇計。一夜
 あ。夜再三不覺と溜るる。峯龜山。長瀨まで。一日一夜。素名捕れ
 股肱の勇士も。悔しく戦死せむ。益今。是きあり。お死の氣色をりけるを

備を又珍蓋を。とらり。台傍。金地。室山。あんと。忠義の諸
 勇士。皆く。曰。後。其の軍。後。想。遠。く。這。一。城。又。遍。る。の。細。を。れ。ん。
 俺。們。と。初。藩。代。の。忠。臣。當。城。小。死。と。決。ま。さ。る。思。早。む。い。の。こ
 いら。も。使。率。雜。を。子。に。り。こ。羽。柴。が。大。軍。小。恐。怖。を。一。向。渡
 小。達。び。き。輩。を。一。然。ま。れ。な。送。城。小。合。戦。を。も。功。あ。き。こ。こ。小。ゆ
 ら。も。ん。後。發。く。送。地。と。退。去。わ。り。尾。口。蟹。に。小。瀬。守。ら。せ。む。彼
 地。の。要。塞。堅。固。あ。り。彼。城。に。在。り。備。家。が。出。陣。あ。る。と。い。ひ。
 兩。軍。一。時。小。籠。り。發。射。を。羽。柴。は。攻。め。ん。小。勝。る。道。理。乃
 ち。あ。ら。ん。や。ま。つ。く。姑。く。和。を。思。ひ。敵。の。銳。氣。と。遊。む。一。日。突。に
 同。様。に。練。言。し。た。ね。が。一。益。勦。息。と。勢。を。衰。し。既。小。今。綱。も
 滑。る。に。め。し。吾。運。城。小。功。と。達。勢。伊。勢。三。所。氏。各

素名の城を
 奉同はる伊勢

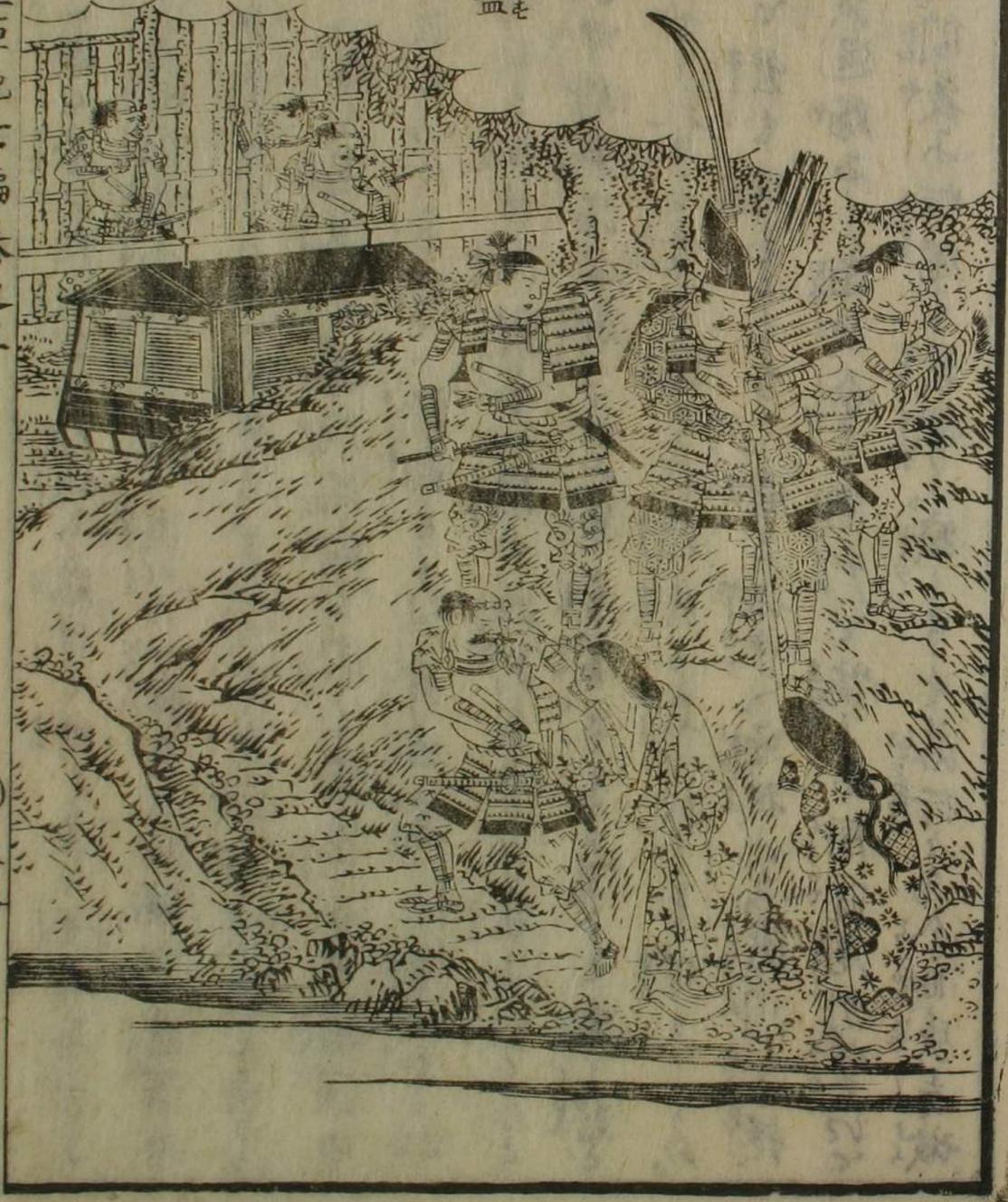
三好 ありしに、後川 遂に、千尋万略、其名は外に
 ありしに、根を、秀吉、敵にあは、當日より、深行、毎夜
 颯々として、鷲の窟とも、指つ、是、秀吉、天運の、我、又、信
 長、法、き、が、あ、り、然、と、今、更、羽、柴、家、に、胆、を、入、是、死、を、
 二、後、する、秘、傳、あ、れ、ん、這、部、不、遠、び、一、道、か、穢、行、する、む、あ、り
 ん、や、峰、思、ふ、と、忍、戦、なり、城、は、火、と、焼、撃、死、す、名、と、後、代、小
 子、投、つ、る、覚、悟、の、見、え、く、獲、す、り、諸、將、も、別、少、い、冷、く、
 多、く、後、に、退、く、區、く、守、地、く、と、堅、め、り、諸、城、亦、大、羽、柴
 大、軍、喊、と、喚、り、鳥、銃、を、放、菟、智、將、の、陣、に、突、破、ら、ん、と、後、記
 標、を、攻、過、る、れ、城、會、も、亦、斬、と、皆、途、と、火、く、水、く、小、防、城、せ、

加、と、進、出、の、名、も、茶、勇、多、く、暴、言、と、更、代、面、も、振、せ、る、
 急、に、攻、起、る、も、城、會、大、軍、進、出、の、羽、柴、が、智、勇、も、怖、懼、防、
 城、を、つ、た、力、と、棄、て、る、脱、小、船、づ、み、見、え、け、る、法、日、重、入、部、隊、
 室、山、佑、中、守、被、率、と、懸、一、近、細、り、這、地、に、那、地、を、指、揮、を、
 くる、ゆ、ゑ、危、く、も、防、ぎ、堅、め、け、る、其、中、も、小、林、直、八、亦、長、く、
 強、弓、推、把、り、寨、樓、不、漏、り、平、渡、雁、又、柳、茶、あ、の、の、矢、策、と、角、
 て、殺、す、射、出、を、箭、矢、會、過、つ、を、右、横、方、横、に、射、頭、あり、
 中、川、瀨、玄、湯、と、れ、城、を、より、懸、懸、と、奔、り、懸、懸、と、懸、す、
 敵、一、人、の、矢、矢、は、屋、に、何、怖、く、と、進、身、を、怯、む、と、軍、を、や、
 棄、投、と、棄、帶、亦、捨、り、指、揮、く、る、法、秀、吉、と、れ、法、高、あ、り、
 捨、平、の、と、法、射、く、瀝、せ、令、せ、小、平、野、捨、平、長、春、菜、所、と、

馬筋出〜敵近〜あるまゝ。小附と把〜掛〜をり。小握儘頭收
 の証文と法書あり。小林小鶴〜大書あげ。後集の策の返
 報せん。受ら〜。亦も終〜。羽向活〜。敢〜。放〜。観遠
 小林が。曾隔より大韃まで。接換と射徹くれ直八。逆跡あり
 死去〜。是小機と得〜。中川勢。梶原が千傳の洞を襲て
 右隣の洞中登る。像〜。奥野〜。攻記〜。城も這口を破
 ら〜。と。正圍〜。防我〜。炮小の黒雲。砲ををりせ
 又上の大楯。寇と啼〜。爆〜。溜〜。大地と震ひ。山のや〜。
 續給〜。見〜。那徑果〜。も〜。け〜。浩〜。不〜
 大将秀吉。あふ懐さ〜。ん。選深吹せ。諸軍と退せ。五ひ〜。ね
 諸り〜。諸方の軍勢。強感。氣〜。攻路と解。自己〜。陣〜。

率退〜。城中〜。亦是〜。疾〜。備謀計。あ〜。と。逆撃も
 せ〜。試合せ〜。進兵。荐び攻〜。ね。日。堂。山。軍。の。花。后
 軍。強〜。人。小。孫。云。な。音。城。退。去。と。動。ろ。ろ。あ。急。り。討。又
 獲。氣。の。一。差。も。秀。吉。が。智。罟。小。陣。易。〜。な。ね。逆。〜。退。去。の。高。激
 又。極。ろ。逆。准。備。あり。逆。び。け。〜。逆。撃。者。ら。ん。も。云。後。あり。一。段。あ
 〜。逆。去。せん。が。怒。〜。逆。撃。せ。〜。ん。然。バ。俺。們。勢。撃。と。荒。ん
 其。際。〜。谷。崎。日。香。の。個。〜。主。君。と。中。渡。〜。屋。主。と。滝。川。美
 活。舟。山。内。中。守。逆。去。拵。あり。と。百。餘。人。當。夜。の。二。更。を。鑑。り
 瀨。中。川。が。陣。〜。推。進。〜。瀨。玄。清。清。秀。陶。新。あ。さ。せ。を。結。陣。〜
 々。ね。〜。捨。捨。縛。〜。正。寇。小。逆。出。呼。聲。〜。敵。の。不。行。勢。撃。を。〜
 と。そ。好。〜。れ。先。他。兵。自。兵。の。目。と。覺。さ。せん。ど。竹。葉。〜。を。て。燦。と

とまがらふまを
滝川一益
闇夜に
潜る素
名の城
を衰
脱了



豊臣記七巻之三



豊臣記七巻之三

海を一個も餘さず敵もせん。我も越けし時より十面を方よ
 棚記より。澁川室山兩將の。睦退口の。一戦あり。強く進軍の
 陣營は。斬崩らん。わらの軍もせむ。二之夜接合するの。みよく
 隊能く。兵と退收つ。城門開閉と。関し。つり。兵も。進軍の
 陣。みよ。その。や。敵。勢。と。發。動。する。兵。秀。吉。後。令。と。出。され
 敵の進。する。陣の。外。後。合。の。隊。列。あり。とも。案。よ。動。く。と
 あり。れ。中。川。鉄。源。不。將。し。れ。軍。令。者。を。あ。る。と。實。く。敵
 指揮。せ。れ。る。案。よ。遠。を。清。秀。も。あ。る。守。り。し。る。
 隊。兵。と。世。も。攬。さ。る。と。あ。く。遂。に。敵。中。へ。逆。投。する。澁。川。を。後
 ち。中。退。隊。中。へ。敵。合。令。へ。開。戸。と。情。く。し。関。尾。州。懸。い。と
 中。國。夜。不。炬。燭。も。最。徹。く。寂。く。し。て。落。行。る。今日。秀。吉。城

攻と大急ふ止むひん。是も城より。案回務家。出軍の。よ。を
 沿伸せし。ゆゑ。それ。と。あ。る。は。諸。將。と。退。し。り。却。て。敵。も。疑。が。い。せ
 て。謀。計。の。や。と。怪。し。ま。せ。し。る。實。も。博。大。ある。智。將。軍。あり。

秀吉還軍志津嶽構大營属謀後濃州

死を。さ。す。夜。痛。の。良。業。と。と。急。を。拵。ま。さ。ま。あ。ふ。の。清。宗。と
 瀧。く。小。瀬。の。澁。川。所。附。の。危。急。と。凌。ぐ。案。回。も。出。陣。も。知。り
 づ。き。よ。其。と。知。り。し。る。返。城。せ。し。る。天。下。へ。羽。柴。と。助。る。あ。る。ん。出
 り。か。よ。昨日。来。の。そ。る。當。天。江。州。長。濱。の。城。番。津。永。石。見。守
 亦。下。木。左。衛。門。傳。の。頭。馬。使。来。り。し。小。國。の。藩。將。案。回。務。家。作
 久。間。玄。蕃。と。先。陣。た。し。め。昨。七。日。く。ま。や。く。も。江。小。柳。ヶ。瀬。ま。で。
 出。陣。つ。り。ま。り。早。ね。と。越。え。て。秀。吉。聆。し。り。し。る。案。回。務。家。と。せ。さ。せ

一と緒將と集り軍議を申し、此日の如く料理し、御とて
 當夜返城せしむ。長濱、赤名、峯、龜山、送田、筒城と、佐
 旗、小安、属、まの、せ、次、小濃、州、改、身、城、の、壘、守、と、別、く
 指揮せん。九日の正明、小赤名より、船、小赤、され、諸軍を、瑞
 作、屋、川、より、大垣、ま、く、送、登、大垣、の、城、に、投、入、し、池、田、父、子
 二、対、面、あ、つ、く、濃、州、壘、守、の、事、と、議、せ、し、池、田、指、系、遠、者
 小、蟬、屋、出、羽、中、隊、當、副、重、同、日、送、地、と、稱、せ、し、し、池、田、當、て
 推、出、し、其、勢、五、万、八、千、餘、騎、江、名、坂、田、部、春、照、より、石、田、誠、一、く
 長、濱、小、出、む、し、これ、を、部、伍、と、定、め、し、一、番、の、堀、之、を、守
 秀、政、二、子、除、騎、二、番、の、長、濱、の、城、番、と、力、神、谷、誠、中、守、定、教
 山、路、將、監、正、國、大、陸、後、八、席、友、兼、足、田、右、近、員、宗、保、三、子、除、騎

二番、少、木、村、小、集、人、成、昌、堀、尾、茂、助、吉、晴、木、下、將、監、利、繼、保
 二、千、餘、騎、以、番、の、糸、田、孫、右、衛、門、長、春、加、藤、作、内、系、教、清、野、孫
 玄、勝、長、政、一、柳、市、助、直、盛、傳、二、千、餘、騎、又、番、の、孫、基、助、親
 世、尾、田、官、玄、勝、孝、高、明、石、共、正、國、全、友、木、下、勘、将、由、左、衛、門、利、國
 大、垣、金、右、衛、門、正、貞、山、内、猪、右、衛、門、一、豊、尾、田、甚、右、衛、門、長、基、保、一、万
 除、騎、六、番、の、小、孫、七、席、秀、次、中、村、孫、平、次、一、氏、保、三、子
 除、騎、七、番、の、羽、柴、英、濃、守、秀、長、一、万、除、騎、八、番、の、筒、井、大、和
 入、道、順、慶、六、千、餘、騎、九、番、の、赤、松、次、郎、則、之、蟬、須、賀、彦、右、衛、門
 正、務、一、子、又、十、席、家、正、伊、藤、掃、部、助、祐、時、保、二、千、餘、騎、十、番
 の、赤、松、孫、二、席、則、村、神、子、四、守、左、衛、門、通、清、千、七、百、餘、騎、十一、番
 の、長、谷、共、一、席、忠、奥、三、山、右、近、長、房、赤、山、修、理、亮、一、春、又、子、余

騎十二番少羽葉 於次九秀務 他石持会海兵衛久一万除騎
 十二番ハ中川願会清秀羽根田昌門守。之予除騎是と
 本軍の大隊候。十二段菟理と稱ふ。備後陣少總大将羽葉
 筑前守秀吉あり。羽翼小從率門く少。如藤虎之助清正
 石川兵衛貞友平野権平長春。片相助徳且基。加藤孫六
 嘉明。これ成りつ。右隊とす。福徳市松正則。服坂甚内
 安治。糟谷助右衛門武則。大谷慶松。吉隆。淺野八景。右衛門
 改治。これ成りつ。隊小近行せつ。も。送勢一万又千除騎。末後遊
 軍の隨仕少。杉原七舟。右衛門。荒木平右衛門。氏朝。倭。二千
 除騎。兵糧小荷駄の案願。其外國士。諸軍人。新系。近
 著の集勢。残。これ成り。算。都合七万八千九百余騎。

本軍當て進發あり。其日ハ卯月の十日あり。と。送小水國の
 先陣。佐久間玄蕃元盛。改。又日小水庄と。桑向。周月
 七日。小水別あり。折瀬。境。小着。ける。大將。柴田。務。家。ハ。建
 途。中。軍。馬。と。留。り。款。地。の。窟。変。と。窺。え。ん。今。庄。ハ
 澤。留。を。感。る。小。玄。蕃。盛。改。ハ。情。勢。緩。急。ナ。リ。ト。折。瀬。近
 邊。と。故。火。ナ。リ。
長瀬の通傳ハ早水村ニ在リ。曉將ハ早水村の尾に在リ。其の故火ハ、
 曉將ハ早水村ニ在リ。曉將ハ早水村の尾に在リ。其の故火ハ、
 天神山の壁守り。儀見。對馬守。小。二千。余。騎。の。告。を。よ。り
 本軍。池。原。山。小。陣。治。せ。
池原ハ天神山の西に在リ。十九町のあいだを隔つ
 本軍。回。轉。山。の。壁。守。
 小。水。不。破。者。之。小。二。千。余。騎。の。勢。と。授。け。て。小。水。山。又。活。路。と。せ。
小水山ハ小水川の上流に在リ。今庄の同ノ山ニ在リ。今庄ハ、
 行。一。萬。少。又。千。余。騎。少。隊。候。と。堅。中。これ。より。西南。小。連。り

天正事傳
其母山内
亮の事
石田の事
其地
其地
其地
其地

より別總山より拜師にたて。柴田之左衛門 榑谷山より徳山
又信濃中谷山より全權八木谷山より毛受備兩同義
たし海國月信子孫伝て布列し。榑谷山より通る時先
神も哭し。天狗も通と笑ふると殺る看せし理あり。
備中羽柴秀吉。其智慮深き奇謀あり。先受備遠おと
その機密を悟ると。郭然とて大神通と傳てたつてて。
柴田が所を攻進んて。快よりこれ以察知し。これ遠
脱し方賊か。小西保九郎。石田佐吉。二千餘人の人技と
舟具なり。亦も餘湖の辺をふ。船寨と築む。おとと。舟
の舟七箇なり。東野山堂山山時天神山神。這响大殺成納
これ長湊の城代。石田。小西海船。これ守を凝守在

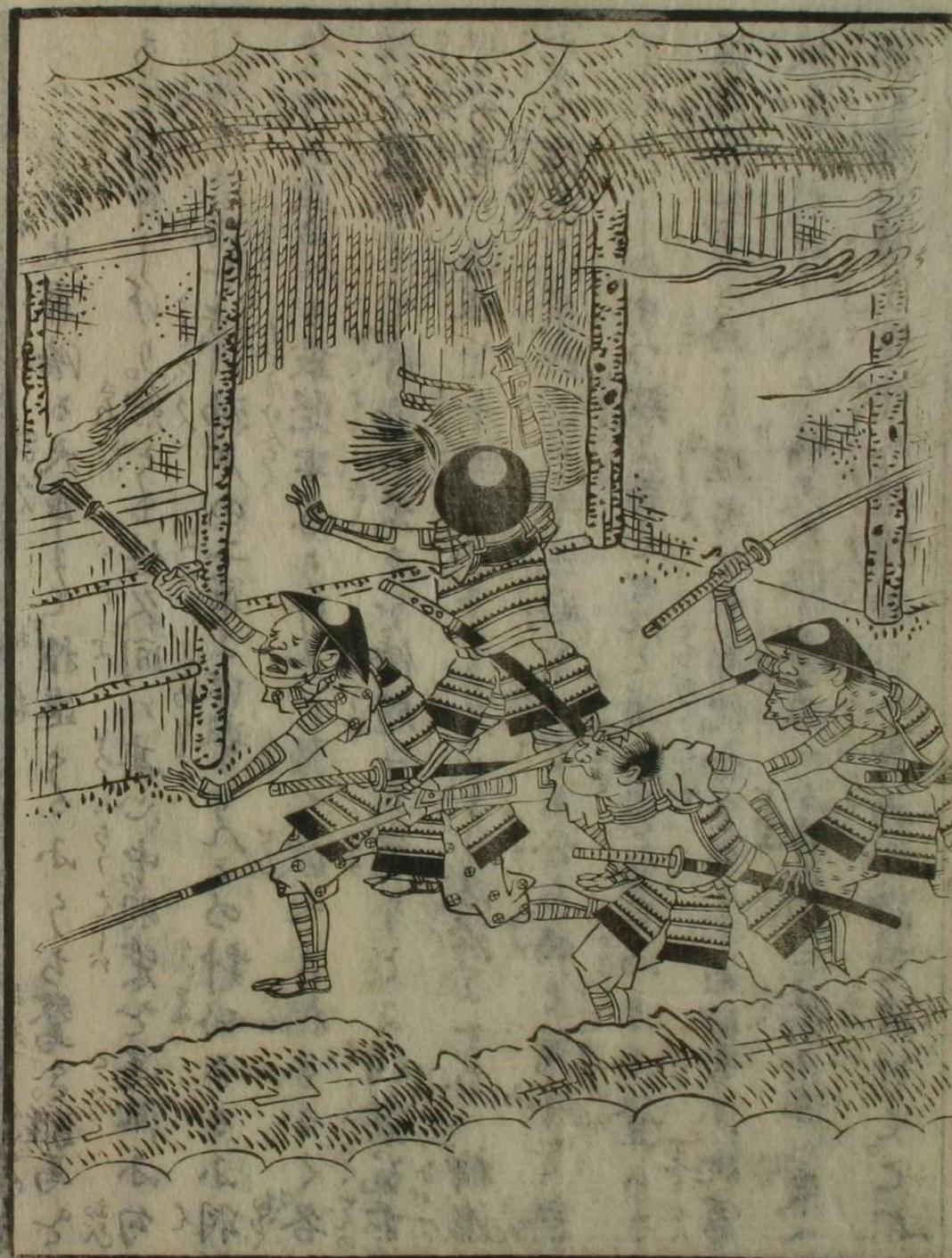
より一が北軍浩る大軍を推進する。おと驚き。駟馬を
もて注伸しけり。然とも佐久間。其心中羽柴を遠おと
引傳て。後路を滝川神戸の二軍に攻撃せんとの計略なる。小羽
柴方の要も生も最堅牢なりけり。強て攻べさ相もかく。各
陣を堅ふして。秀吉の来るを待請う。然やと羽柴筑前
守秀吉の隊伍を十三段とさし。おと後陣より。柳瀬
當て推出し。東野山。十三段を二方に分ち。榑と筒井を
軍とする。めめら戦えん。順慶とて山方お登らせ。
榑秀政を原の路より推出させ。鳥銃合をさめける。小。兩軍
双虎の憤る像く。榑久太郎秀政。小谷の川を前ふ。東へ
添て陣を張り。筒井入道順慶。天神山小陣を敷けて。これ



佐久間
 盛政
 瀬邊の
 在郷を放
 火あしき
 行一山小陣
 とやし。

豊臣巴二編卷八

三十三



豊臣巴二編卷八

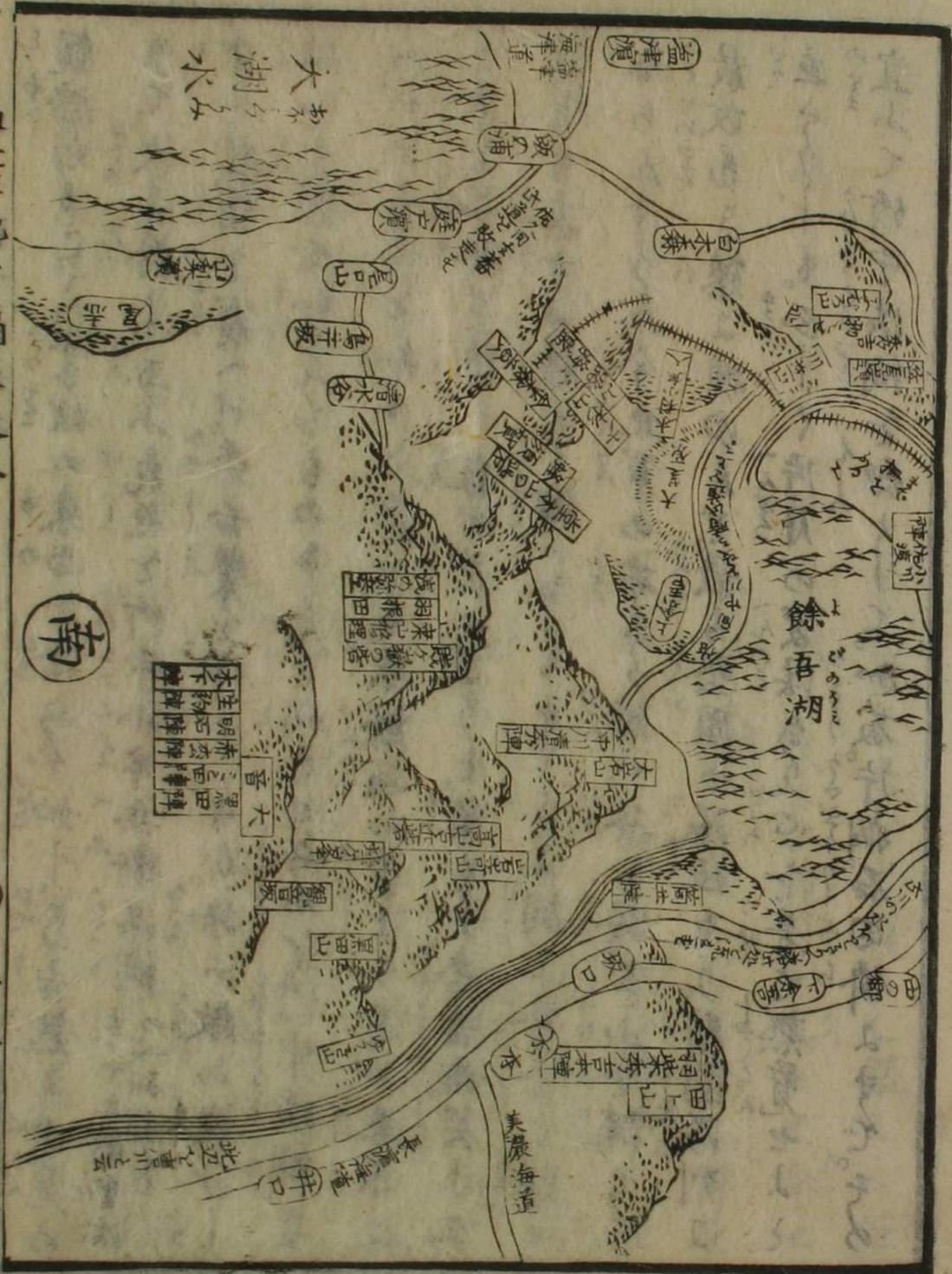
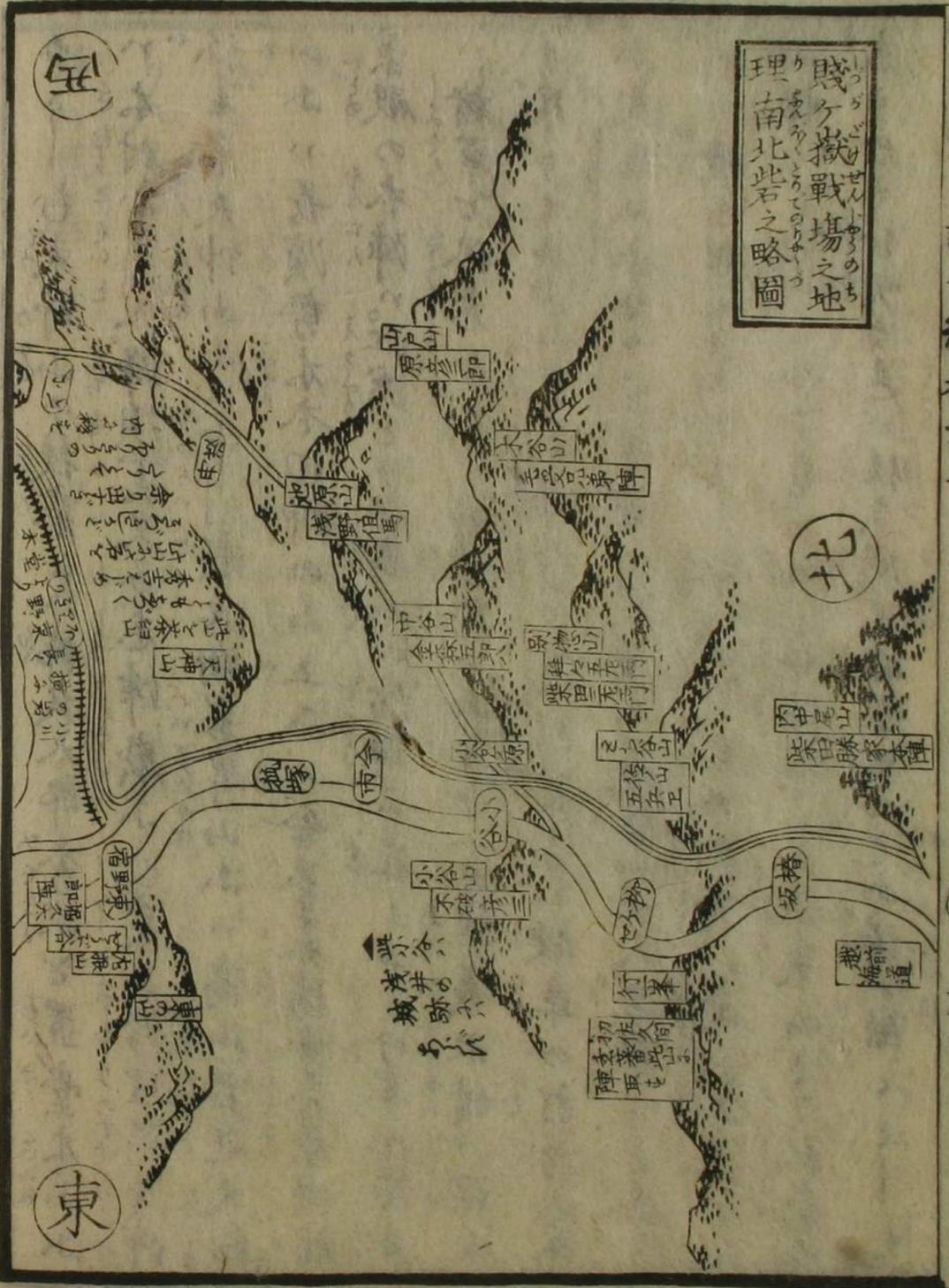
三十三

らぐ魁軍松倉右近方角奥山三方あつて城の先雨勢ぶつろ六百
 たりと駈出し喊を發し鳥銃を放菟喰く声して佐久らるる隊
 伍を的ふ當分市が原まで推出た。こを看るより越赤勢
 も魁隊の駛卒を推出し喊を合せ鳥銃をも亦方らドと發
 放く防戦ふとつふとつども切の之猛くもあつざる。奥
 山松倉奮然としく長柄隊伍を操出し薔地に突出るしけ
 る小ぞ其勢を怖るけんと崩て敗走と方勢ハ勝小
 宗て小谷河原へ推出たを堀久太郎これと判し止操吹を返
 返さしむ是秀政も戦場熟練の智將なれば敵の謀計もあ
 らんやと急お返陣かきせり。遠响大将秀吉御城が指
 揮の深慮と感ド志をく賞養せられつもの。さか遠く小在陣

流布し統
 其の平陣
 とわらぬ
 一はふ
 地ふりや
 いふや

みまむ。東野山の技察よの堀久太郎秀政を置堂本山小
 の本村小隼人峰頂を父子志津嶽小の東山修理亮淺野
 弥左衛門天神山小の中川瀬兵衛岩野山小の高山右近大杉
 山小の長濱勢本本四神の山上小の舍弟養濃守秀長猪羽
 柴殿の本陣江渡といふ高山の指岬に在し中けるが。其目
 の緒軍を休息かすの曉れ四月十一日旭熾水精を嶽よ
 り昇りて。まご一竿の高あつざり。其身の駛卒の打拵志玉
 ひ文室の上あつて世尾嶺の絶頂。扈從四人召率らるる備く
 然と登らせあふ。今日や靨て照る日の光明に南に小悉く
 満輝くといふといふも。山西の嶺暹明して山東おしく秋毫の
 末すれも分明なれば。佐久間不破原あんど陣ハ皓くして

賤ヶ嶽戰場之地
理南北此之略圖



観諦むること。密裡の東西と拾ふが如し。秀吉熱く御覽ありて。大に感へ。吾ふ氣を竹中小平兵衛治綱古平兵衛重治の二子なりの密と顔相を窺へば。秀吉聲を標ふし。汝の敵の殺け陣を定んで知りつるものあらんと同くせ。あふと竹中治綱。なつばいこそを知らし。ども。原謙退の勇士なまは。卒示よこそを各得む。曾て存ぞいなりと。稟を秀吉微笑し。玉ひ。よも某方が織る陣は。なるまじき。綱を秀吉小謙る。みらんずらん。今北軍の布る陣は。谷を跨ぎ山を隔て。最攻易と態。又視ゆ。最も堅固の隊伍あり。團圓隊列。よ。立りし。も。正しく片月の変法あり。心を着て熟覽せよ。と。宜ふて竹中治綱を頼りて。加茂片桐石田儕よませ。その

大策を教ふ。各これと感察を。君を守護して鎮くと。尾の嶺を東へ下り。江波の本陣に投玉。緒將を集めて命せける中。昨日の佐久らが戦相。未勝敗も見え。先陣を退し。意得ごと。今日尾を登りて視ま。敵の陣法と。理小稱ひ容易破ること難し。遠をりて察すれば。勝家原兼將。又河次。吾と久しく遠比。小衛置其。余は勢別。濃列を。神戸龍川。平均なせ。其勢威と打合せん。三方一時小狭。遠山中の難所。おいて吾を拗ぐ。ん。針略あり。然ども。吾。これを快より。量察し。今亦自方の陣營を。熱く算考。ふ。是。不足と悪と。比あり。餘吾の北。天神山の敵。を。防。ぐ。小。要。崖。送。あり。吾。今。図。を。り。て。教。示。す。べ。け。ま。は。要。崖。を。然。と。

変らまよ。精しく繪圖を記系玉ひ。長濱己酉の民を扶役し其
 結構をぞせさせける其ハ閣々茲又前田孫四郎利長ハ先陣の
 副將をして佐久間を扶けて柳瀬辺を焼打なり。大小軍威を
 示さしけるが。決ても長在まへこふあつ。決と其退時境を弑合
 うう。羽柴のいすゞ推進するうち。退でハ悪名通まがじと。
 大急病と呼稱。淺野但馬守を留置。其身ハ直北に退返し。今ハ
 ある又も豫て密意を通じ。うけまは。又子一雙又病氣なり
 と。本城府中へ退取ら。勝家其意を識るといへども。
 指てこまを咎めもせむ。等閑ありて置まけり。こんまこ
 羽柴秀吉ハ繪圖をりつてその要産を。結構せさむる
 次第を親く小。東野山の禁より西へうけて川並まで其際

ち。十は又町とわ成深く穿通らせ。柳瀬川の氷をこりて送
 場徹ふ流し。密除石の小湖に落さうめ。岸ありまう。去堤を
 築き頭上より麻垣柵を造り。這柵内にも小枝寨をおき。
 まつ。這道大急小役。坂口山と志田山の其山間ふ二ヶ不
 まで。昼夜を逼て枝寨を築う。是大岩中。岩崎山の枝寨
 あり。是等の結構速小。二日ケ際。成就せり。斯の如く。備りし。
 自由自在。事調理し。倉是秀吉よりあり。長濱在願せ
 らし。附。民寺社等小。秋疎あり。仁義の恩沢。存り。其
 地方の生民。こも。と。脚力。さ。功。芳。直。北。不。満。足
 あり。秀吉。日。來。の。若。改。ハ。這。駒。不。至。て。歴。兵。う。先。や。と。れ。う
 の。枝。寨。と。緒。勢。と。軍。城。あ。う。れ。ん。と。其。分。格。と。定。め。ら。る。ま。ら

東野山 木下と村ヶ野の山中 あり 葛蒲谷 おぼろ 小坂久き舟が二千
 余騎それより 西南大杉山 地形最悪 されば 下辰隊依と 二面
 小坂の中央へ 深田勝豊が 居家 山路 將監 右の方より 大陣
 八たいた村小陣又 三陣列合せし 千餘騎 一極上の大陣依
 陣 陣實正務 その心 其勢は 千六百余騎 備極嚴の柵の
 うちより 小川 伏波守が 二千余騎 次小東方 賊嶽の 殺所より
 素山 修理亮 羽根田 長門守 法野 延吉 清勢 二千又百余
 騎 その指押あり 田坂 坂口 峰の中腹より 新子 捷し 大岩
 山の一寨 急城ゆゑ まど 壁あり 乾されし 殊に 簡要の
 殺所あり 中川 瀬玄 清秀が 二千餘騎と 嶮守らせ
 たり 汝あり 汝寨の 大岩より 其際 隔て 七八町 岩崎山と 移る

けるが これより 右近 長房 三千余騎より 對嶮 吉本
 ありたる 太神山 天照大御神は山よりあまのこころをまもる あり 叙の如く 倉身
 秀長 一万餘騎より 降 谷 庄 東と 登り 其の 指押より 筒
 井 順慶 古子 餘騎より 隊 依より 備 遊軍より 意田 官吉 瑞
 神より 田中 庄 藤 赤松 二所 明石 寺 生 河 甚 助 亦 下 勘 齋 田
 赤松 深之 所 依 其 勢 勤 せし 一万餘騎 賊 嶽 の 中 途 小 結 隊
 て 虚 弱 の 陣 と 騙 け め ん と せ し 運 駒 江 南 坂 本 の 激 流 丹
 羽 又 府 大 崎 門 長 秀 一 万 余 騎 の 軍 勢 と 數 殺 の 秘 あり 出
 たり 海 津 により 敦 賀 ほど 遮 止 あり 浪 伸 たり 秀 吉 大 小
 小 森 悦 せし 長 宗 と の 副 將 として 堀 伏 等 賊 誘 ぎ む 斯 の
 如き 堅 固 の 殺 所 小 覺 悟 烈 一 千 勇 將 達 が 鏝 ぐ 摩 川 と 列 陣

一、つれづれ、樓城も官入と協を成。軍會も細過こと、頼るは、
 より、冬、連綿と、路と傳へ、依と繕うを谷より洞へ陣と張。營と
 布き。頼も親送、白帝城の傍、横小親送、鷹翼小、似て、又
 万餘人の軍勢、二万余路、の、遠きと、ま。款より、これ、派、親、る、駒、八、十二
 万、量、つり、とも、羽、或、の、十、万、と、併、さ、る、も、あ、り、と、。將、領、さ、る、も、理、あり
業、田、方、の、先、を、備、え、り、羽、業、方、の、先、を、備、え、り、佐、久、間、盛、政、斯、と、着、る、より、急、使
其、中、同、こ、う、も、十、町、あ、り、と、。羽、業、秀、吉、さ、つ、を、馳、く、今、の、宏、ある、大、將、務、家、又、派、伸、さ、く、羽、業、秀、吉、さ、つ、
 十日、勢、州、境、より、返、り、返、り、賊、藏、を、出、張、し、る、が、聳、て、合、張
 と、好、む、相、つ、り、賊、藏、より、亦、在、る、を、以、て、別、て、新、小、投、寨、と、築、き、
 中、より、要、塞、堅、固、ある、が、容易、小、營、軍、を、が、く、唯、長、陣
 の、准、備、の、と、あり、と、れ、の、の、結、集、成、能、く、畢、ら、ば、秀、吉、定、て、返、去、

一、つれづれ、と、き、ん、が、自、方、の、針、織、も、流、小、あり、秀、吉、よ、り、折、瀬、小、
 繋、を、こ、一、城、が、く、快、く、所、出、馬、勢、と、と、教、度、の、派、伸、あり、と、
 が、勝、家、附、境、除、寒、小、煩、られ、行、任、紀、以、も、安、く、され、と、斯、く、
 猶、豫、あり、と、と、終、小、兩、日、去、る、を、一、二、月、十八、日、の、至、因、今
 の、危、と、進、發、せ、と、接、小、探、り、聖、日、已、半、折、瀬、山、小、を、派、せ、り
今、の、危、より、折、瀬、山、を、派、せ、り、す、ら、本、陣、と、定、む、と、て、折、瀬、河、系、の、流
ま、り、と、し、つ、も、僅、小、七、里、あり、源、か、り、内、中、尾、山、小、を、信、陣、せ、れ、威、と、示、さ、と、廣、大、に、ん、ぬ、
 云、蕃、使、宰、野、統、山、路、將、監、属、心、固、惑、服、
 巖、懸、青、壁、断、地、險、碧、流、通、古、木、生、雲、際、帰、舟、出、露、中、子
 昂、が、係、せ、白、帝、城、の、絶、妙、吟、も、適、當、し、け、る、賊、藏、の、其、傍、境
 を、詳、小、説、は、北、伊、番、郡、除、吾、名、南、の、絶、不、小、と、西北、の

山脚と隙谷水澄き東下折瀬の激流と遠ら西南は豊
 隆も。琵琶の湖碧く頂影と後一峯又中々洞谷八十
 泉瀑布さるる下近く徳ハ奔雨の如く遠く鈴ハ馳風子似
 て。雲と吐雲と吸ふ。孤鬼も通つる徑多中々。鬼神天物を接
 しむをうり。爰く然く他跡あり。然るも羽紫秀吉ハ若ハ
 毎尾子攀縁り。款の虚実と自方の道遠近勢と熟覽する
 不用捨の不悉く。意十分稱いられ。今ハ密謀成勢しと心
 中潜りこれ飲ひ。此ハ懐疑ハ押返さんと。二万八千九百降参。之月
 廿日の蚤朝ハ。亦本と奔せむハ大垣當て進せむり。
流布本ハ一徹月再ハ奔記ハ懐と攻
の流布本ハ一徹月再ハ奔記ハ懐と攻
香吉の傳ハ一徹月再ハ奔記ハ懐と攻
 とも知ら。後ハ对阵し。るる。こ。こ。日ハ造び。時ハ懐疑改

車より驅馬あり。秀吉再び大濃ハ推進。彼車近也と攻む。其方ハも云と紀され。攻進せむと報し。斯と鈴より。誠
 茶湯。此ハ直也。下推参。而中ハ沢。然んと。舞ハき。く。と。昭家
 信ハ制止ナ。吾秀吉ハ。隊列と見。こ。こ。鶴翼の變化と布
 き。信陣悉く。要害ハ。捕各。堅固ハ守。援を。その。と。能令。秀吉
 在陣せずとも。容易ハ破る。こ。こ。足。思。こ。こ。ハ。秀吉ハ。奇謀
 を用ひ。新風。説。と。あ。き。の。務。も。量。ら。を。さ。し。り。虚。宣。ハ。を
 捜。弑。ハ。推。進。し。る。も。遅。く。な。し。と。遠。急。を。り。つ。つ。説。ハ。ま。し。り。
 信。考。義。賢。ハ。急。使。と。し。つ。つ。秀。吉。ハ。大。濃。別。攻。と。報。け。る。也。今。ハ。虚
 説。ハ。あ。ら。う。と。懐。ひ。陰。谷。本。中。の。款。城。と。誓。破。る。べき。方。術。も。こ。こ

又手の併お
ふ合堂の相
と下又の相
上又の相
下又の相
又手用の
又手用の

中務家玄蕃と近く招かれ工史やあつと司をせむね。盛改詔判
頭と傾け。又よして思ふと重くつらうが勝行進せし声と傳ふ
。合今欽の一奉場とわうらうら工史が得し。守ら欽中の假寨
を守る。大将一個と自方小勾引役事と謀ら易うらうら。燒俣
大杉山小對嶺守。山崎將監正剛。系成柴田の家人より伊賀
守小屬とつものあり。其と秀吉が邪志よ迷ひ。慈心深き魁松
奴あねが。欽ふなうらうら。孝嚴父の荷恩多うり。自方よ
惟ありとも。山崎と交深うら者。使統小遣を。智舌とつもの
為控。自方小屬せ。欽の要害。假令蜀道の險小拠とも
攻易うらうら。守小屬せ。其の懐きとやと。粟まよを。勝家於て
大小喜悅。然が情地小計らうら。軍議決り玄蕃。自方

陣寨小歸り。密小親客を撰こける。粵又佐久間が部下
る。宛采頭。宇野忠右衛門。水野利重。といふ者あり。渠ハ山路
と同國より。豫て熟懇ありけむ。實又よき任の人あり
けりと。宇野忠右衛門を密又招き其心腹を搜弑て。山路の
親客を命づけむ。忠右衛門ハ大に驚お。脣小いあむむ
といへども。浩る大持の御使を命屬られ玉なること。遠身の
面目こそ又過む。いり小も山路を親録せ。自方又隨うせま
ありむべし。命又親て領掌なり。使者の口狀承り當日
ハ四月十二日夜の成らふまじ。至らぬども。近來日と降る雨
の纏愁もなきて寂寥。月ハ東山小朧りながら。山下陰ハ凹
凸もろろ。潜行身ハ驗小機曾より。と崖を傳ハ溪を跳

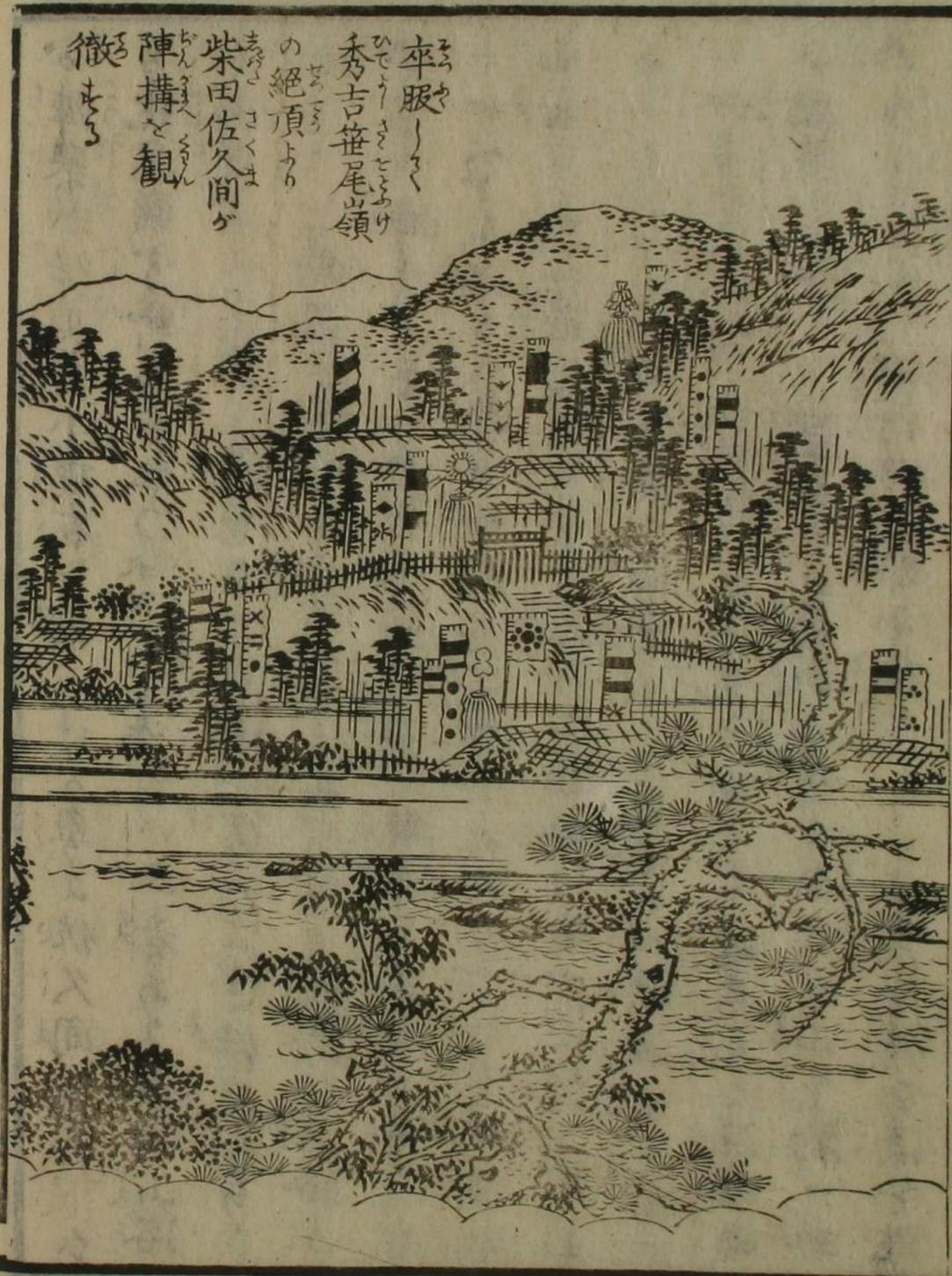
豊目言抄卷之三

三



柴田佐久間

三十一



率服
秀吉
柴田佐久間
陣構と観
徹

豊臣記

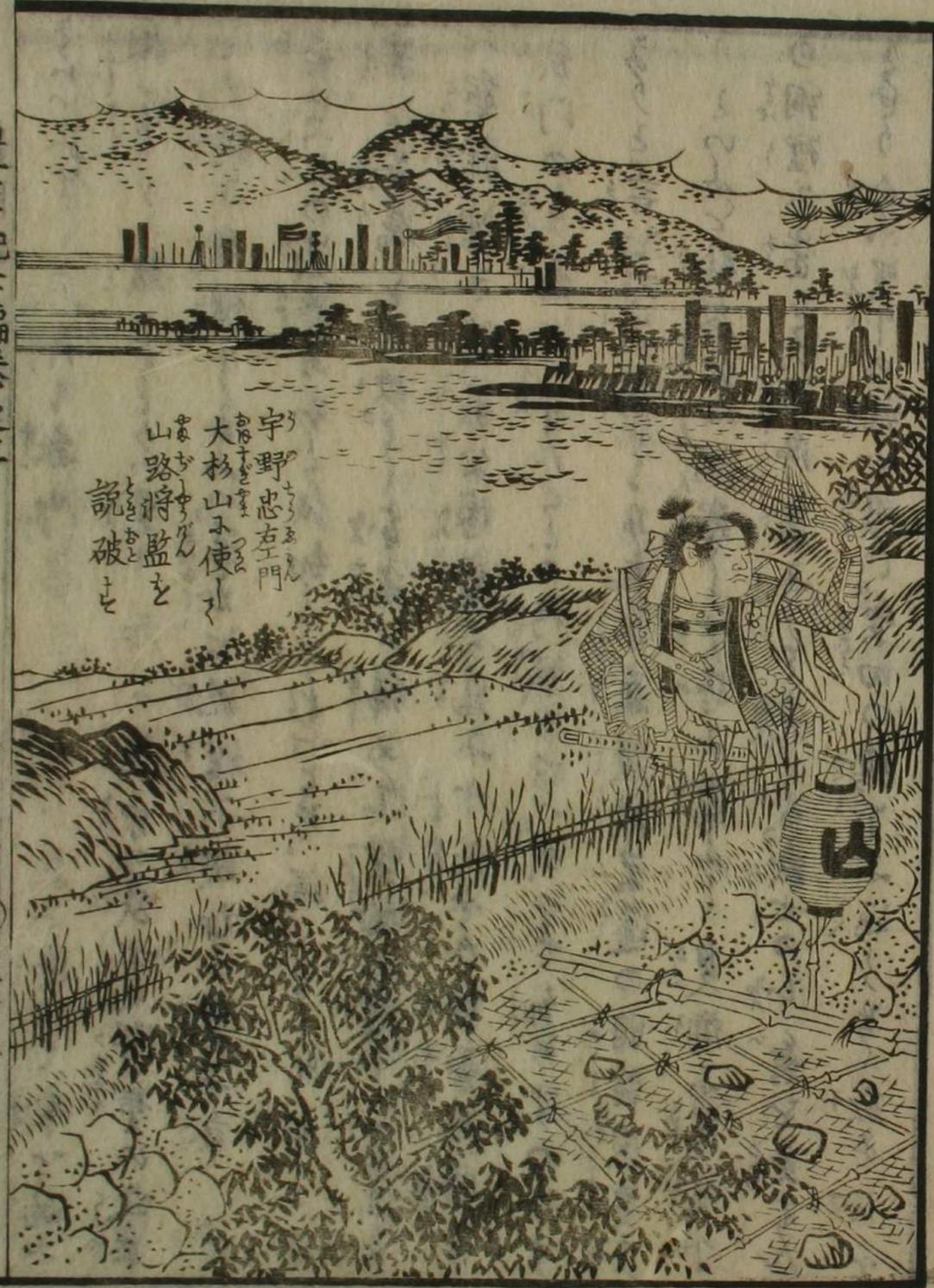
三十一

幸危と出て漸くふ。大杉山へ登り着。遠隊より那伍と窺ひ視る。
 最終明番燈のうへふ。然る幕の花号は。首認のある山路
 筋。そぞと躡り津門よ。音声辨理消息をれば。番兵怪し。こ各
 むる。乃郎の宇野忠右衛門あり。将監刀柄と不同郷りて。
 深く交る者ある。密に禪むる條ありて。命を軽ふ。際り
 たり。遠由告ぐ。五七と。言投ける。小馳無輩も。よく忠太
 光つと者認ける。ゆゑ。即地主人と違へり。将監こそを聆
 散む。いふも。宇野の奮友なる。今いちや敵とあり。逆互
 又雌雄と闘ふ身なる。私事の對面あり。切膈の御
 入来なれども。遠赴を聆容玉ふべし。茶を荐び推返して。その
 小心の御程義なり。然らうなり。平生の親交。淡くさる情

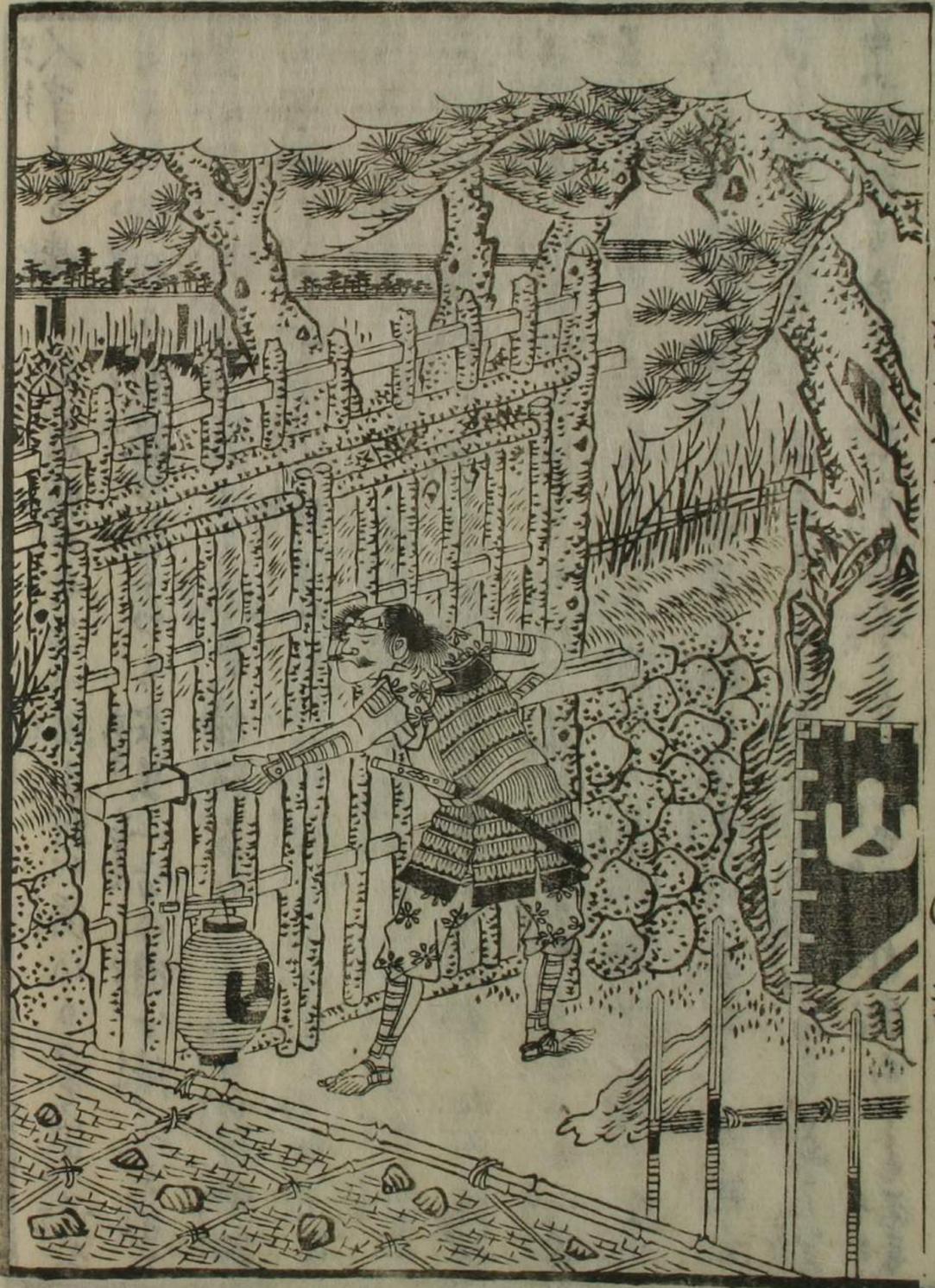
の弁か。斯深更み。訪ひつるも。吾生。信ふ。唯一言。粟投は
 細り。得。森嶺の。谷。り。這。刻。不。審。も。さ。ら。う。
 兩刀。お。う。り。も。さ。ら。う。と。て。山。路。が。駛。率。ふ。ら。れ。爪。探。し。是。州。討
 面を。と。望。く。ける。ゆゑ。刀。と。信。極。荐。び。山。路。ふ。若。々。れ。お。監
 も。有。係。膝。し。き。候。友。あ。う。り。生。涯。ふ。一。言。粟。投。う。り。と。い。底。を
 やんと。記念。なり。あ。刀。を。さ。ら。う。と。辭。去。る。よ。疑。惑。解。つ。忽。世。信
 交。り。密。ふ。信。ひ。り。さ。ら。う。と。其。身。の。記。行。柵。と。圍。ひ。て。清。卜。容。
 誘。り。上。座。ふ。座。と。さ。ら。う。別。後。の。控。れ。平。ら。う。後。忠。右。衛。門。山
 路。ふ。信。ひ。り。れ。生。涯。ふ。唯。一。言。於。え。ら。れ。と。別。義。よ。ら。う。と。
 小。の。背。勇。共。ふ。備。り。其。心。強。き。と。成。務。家。子。の。熱。望。せ
 ら。る。と。よ。這。遣。秀。の。幕。下。と。な。せ。り。と。勝。豊。の。所。同。心

名是地あり功ありと賞をうけりよも 城心ありあきべうりす
 ちりふ因て勝家公もたありと下と惜みあひ切ふ乃丈へ
 給しせらと目又下と乃丈が無意のちうと勝家も海を
 く懐る多ねてと吾も信く命叫られ強情 柴田家一途日
 の如く身荷担し 金をば勝家も大悦を極ふ存ふらる
 運率 所回意ありふおろい乃丈も大慶ありと東をく紙
 吟く山路お監今の如く将監が秀吉の旗下となりしこと
 全く本心の所為ふありと吾も信く命叫られ強情 柴田家一途日
 徳永徳主人と歎き斯始末これ本意あり存ふれども極
 なき造化あり今更柴田一隊しきつせ所 故とかりの事
 近來くろく面目なり 夢るふ不届の乃命と勝家公も斯計

人中とも懐しめされ時せせむ小隊あり保入りおそき後
 ちりふも那般小技寨の印らるも安属一方の將と清くも水
 柴田の所懐情あれども今更隊ありと吾も信く命叫られ強情
 も極感し。今更大人斯もこの所懸切かづけありはくも
 送義へ送義なりが。送義思ふ明日も双方合戦に
 其胸とをみ吾首と見れ小進りのま。細草ぬふ忠衣
 海門甚い理ふ似とて。行く病氣を回さ。是下の一言
 義心ありあきり一途の所子簡なり。系東柴田の旗下なる
 その成恩情の清深を傳る胸へ務費ふい夢せる義理も
 あ。培てや死云の後あるもの成秀吉も捕らる。義とを
 あ。望緒もあきり。忠をねがふ今より勝家公へ自分ありも不義



豊臣記七編卷之三



豊臣記七編卷之三

三十四

といひす。乃亦も赤所為。... 智勇の武士。那量の技。...
 と大持子守護し。... 泥程不没む。...
 右足下の雲量。... 編め。紫田の旗。...
 武門の本意。... 斯ま。...
 言と巧み。... 不道の特監。...
 今。... 紫田の旗。...

是バ恩賞。... 未探語。... 做課。...
 小飲。... 勝豊の所領。...
 万斛。... 願て。...
 欲。... 然ら。...
 遠義。... 櫛。...
 辞。... 山路。...
 山。... 還りける。

繪本豊臣勲切記七編卷之三

